

クしてると子どもの発育によく影響が？」と関わる保育者の心が、その子に向いていない方が心配です。今できる最高のことを今日も楽しもう！こんな心もちでどうでしょう？

子どもたちの前では……園長として事務所で仕事をしていることも多いのですが、日々の保育の一部分心がふわっと温かくなることもあります。0歳児の子どもたちの成長は目覚ましく、今はしっかりと自分の足で立ち、お散歩行ってきます！のバイバイも様になってきました。1歳児のM君は、お出かけの時必ず事務所に立ち寄り私の手を引いて靴箱まで行き、「さあ今日も靴をはかせてね」とアイコンタクト。いつまで手伝わせてくれるのかな？

子どもたちは長靴が大好き。いつもとは違うおでかけ靴も大好き。2歳のIちゃん、ピンクのおしゃれ靴がお気に入り、靴箱には遊びやすい運動靴も入っていますが、いつもお気に入り履きたくて、履いて遊んだら汚れるし、ジャングルジムは滑るし、体験でわかっているけど……。靴箱の前でどうしようと考えているIちゃんに担任が声を掛けました。「自分で決めたらおいで、待ってるね」とドアの外へ行きました。Iちゃんはゆっくり大きな深呼吸を三つ。お気に入り靴箱に戻して、運動靴を履き颯爽とお友だちに合流しました。3歳のA君は、何かお友だちとトラブルがあったり泣きたい気分の時、事務所前の椅子のクッションに顔をうずめて泣きます。結構激しく、声をかけるのもためらうくらい、だからそばにいて背中を撫でて過ごします。少しすると泣き止みクラスに戻っていきます。こんな支えだけどころか良いようです。

年長児とお手紙ごっこが盛り上がりました。「ありが



小さな小さな園庭の森

とう」や「好き」嬉しい言葉がいっぱいです。ある日いつもおしゃべりなNちゃんがともしょんぼりして見えたので「何かあった？大丈夫？」と声をかけると「うん」と通り過ぎました。あとで、「これ……」とお手紙「さっきは大丈夫？って聞いてくれてありがとう」ですって……。

未来につながる子どもたちの成長の一部でも支えているという思いや、喜びも多いのですが、その責任の重さはひとしおです。子どもたちってすごい！を皆さんに伝えつつ、子どもたちとの毎日を満喫して過ごしてまいります。

(静岡県 一番町保育園 園長)

農園の環境を生かした田んぼ保育を

片岡 滋夫

柳辻こども園は、京都市の東部にある山科区の中心部に位置しています。園の直ぐ東側に区役所があり地下鉄の駅もあります。よって通勤に便利で宅地化が進み、田畑が少なくなりました。ですがポツンポツンとまだ残っています。1975年に開園し初代の園長の職業は農業です。よってその経験と環境を生かした保育、つまり田んぼや畑を活用した保育が大事な柱となっています。また地域社会に貢献したいが口癖でした。開園当時は待機児童という言葉も無かった時代で、入りたい方には無理しても入っていただけるといって考え、150人定員から現在は319名定員ととても大きな規模の園となっています。



御田植祭神事



親子イベント 田んぼで遊ぼう



年長児と共に稲刈り体験

園から250メートルの所に30アールの田んぼがあります。春にはレンゲや菜の花が咲き乱れます。前年に子どもたちと一緒に種蒔きをして春を楽しみます。次は田植見学、副園長の操作する田植え機に驚いています。また氏神である岩屋神社の御田植祭見学があります。園長、副園長は装束を着て、保育教諭も早乙女に扮して儀式にのっとって厳かに行われます。9月頃に稲の花が咲きます。子どもたちにお米を守ってほしいとお願いし、案山子作りが始まります。抜穂祭の儀式や稲刈り見学を終えると、田んぼが遊び場となります。藁の家で遊び、鬼ごっこや走りまわって遊ぶ、親子イベント等楽しんでいます。収穫を終え「なぎちゃん米(5合)」のプレゼントを全園児・全職員にしています。2歳児の子が大事そうに両手で持ってわざわざ園長を探して「おこめありがとう」と言ってくれます。次の日3歳児の子がもじもじしています。するとお母さんが昨日お礼の練習してたのにと。お子さんの笑顔で十分だよ、と伝え楽しい会話ができました。

次はお結び大会です。園庭で釜戸と薪でご飯を炊いて楽しむ食育イベントです。巻きずし用の大きな海苔に炊き立てのご飯に佃煮のこぶ、鮭とツナマヨです。子どもたちの大人気行事のひとつです。電気やガスが止まってもご飯が炊ける。防災対策の一つだと職員には伝えてあります。12月には田んぼで採れたもち米を使って親子お餅つき大会を開催します。家族揃って参加です。きな粉餅、餡子餅、大根おろし餅を好きなだけ食べるイベントです。はっぴ姿で5歳児の子どもたちもべったんべったんをつくります。お父さんお母さんにもついてもらいます。残念なことにコロナ感染防止のため今年も親子から子どもだけの開催となっています。

田んぼの横に温州みかんを栽培しています。12月にな

ると子どもたちと一緒に採りに行き、フレッシュジュースを楽しみます。みかんの横にレモンとスタチも栽培し、たくさん取れた時には子どもたちにお父さんやお母さんにプレゼントしてねと言って渡しています。「すっぱかった」「ママ喜んでた」等と可愛いコメントが嬉しくなります。

より食育環境を整備しようと考え園南側に隣接した農園庭(958平方メートル)を2018年に整備しました。地下水のポンプ、水路や小さな池を作りました。

春にはスナップエンドウのフリッター、ジャガイモのフライドポテト、サツマイモの大学芋、マルベリー(桑の実)のアイス、玉ねぎのフリッター等自分たちで収穫したものを食べて楽しんでいます。なかには不得手な子もいて無理に食べなくてもいいよと伝えています。

水路にはセリ、クレソン、池にはハスの花が咲きます。ミニ田んぼを作り泥んこになって田植え、自分で鎌を持ち稲刈りを体験する。年長児と一緒にカボチャを育て食べる。京都市動物園から象の堆肥をもらって、大根を育てて象さんにプレゼントする。

農園庭で栽培した菜の花、サニーレタス、キュウリ、ミニトマト、青首大根などカードをつけてプレゼントしています。梅雨明けから暑くなり世話ができずに雑草がはびこり大変なことになりました。そのおかげか農園庭にはバッタ、カマキリ、コオロギや蝶やトンボ等虫だらけです。水路や小池にはオタマジャクシ、カエル、ザリガニもたくさん繁殖しています。子どもたちは毎日虫探しで大喜びです。ちょっと位でへこたれない探求心豊かな可愛い子どもに育つよう願っています。

(京都府 柳辻こども園 園長)